

環境首都なかしべつ

～都市マス通信～

2009.12

第1号

【発行】 都市計画マスタープラン策定事務局
(中標津町建設水道部 建設課街づくり推進係)

まちづくりフォーラムが開催されました

去る11月5日(木) ウェディングプラザ寿宴にて、『環境首都なかしべつを語る夕べ』とした「まちづくりフォーラム」が開催されました。

このフォーラムは、現在進めている「都市計画マスタープラン(通称、都市マス)」の見直しの一環として行われたもので、総勢180名の方のご参加をいただきました。

フォーラムでは、北海道大学大学院の小林英嗣教授による「まちは要りますか？」と題した基調講演をいただいたあと、16の班に参加者が分かれワークショップ形式によるテーブルトークを行い、「これからの10年・20年大切にしたいまちづくりのテーマ」について議論いたしました。

今回のワークショップでいただいた意見は、今後の庁内推進会議や策定委員会における議論の材料となり、都市マスの検討に反映されることとなります。

フォーラムにご参加いただいた皆さんに改めてお礼を申し上げるとともに、今後ともご協力いただきたくお願い申し上げます。



第1回策定委員会 が開催されました

フォーラムの開催に続き、翌6日(金)に第1回目の「都市計画マスタープラン策定委員会」が開催されました。



策定委員会は、都市マス通信準備号で募集した4名の公募町民を含む21名の委員により構成し設置しました。(策定委員のご紹介は裏面に記載しています。)

第1回目は、都市マス見直しの目的や内容、これまでの取組実績などについての事務局側からの説明が主でしたが、委員の方々からの率直な質疑や意見が出され、活気ある会となりました。

議題：『これからの10年・20年大切にしたいまちづくりのテーマ』

参加者の方からたくさんのご意見をいただきました。

ここでは、すべて紹介しきれませんが、16のテーブルからでてきたキーワードと代表的な意見をご紹介します。

地方都市としての魅力を活かす

- ・街としての機能がそろっている。
- ・地元の良さに気づいていない。
- ・良いものはあるが、うまく活用できていない。

歴史を伝える

- ・歴史を学び、感じられるまちづくり。
- ・中標津の歴史、写真をまとめて閲覧できるようにインターネットで公開。

ゆとりある暮らし

- ・幸福感=ゆとりの感じられるまちに。
- ・歩いて暮らせる、自転車で移動できる街をつくる。

安全・安心な生活環境

- ・災害訓練等、地域の一体感のある取組により、共通認識が高まる。
- ・街灯に庭の木がかがさり電灯を隠し暗くなる。

高齢者や障がい者が安心して暮らせる思いやりのあるまち

- ・お年寄りの交流の場がない。
- ・お年寄りが生活しやすい歩いて暮らせるまちづくりが必要。
- ・高齢者が楽しめる動機付けが街に必要。

子どもを育てやすいまち

- ・子どもが気軽に遊べる場所がない。
- ・タワラマップ川を整備して子どもが自由にのびのびと遊べる所にする。
- ・子どもたちの心の豊かさを育成する。

若者が楽しめ、夢の持てるまち

- ・農業高校をもっと大事にし、活かすことが必要。
- ・高校生と地域とがつながってできる活動をつくる。
- ・中高生の居場所をつくる必要がある。

スポーツのまち

- ・スポーツ都市なかしべつを目指す。
- ・役場内にスポーツ課を置く。
- ・お金を取れる野球場、サッカー場を。

ふれあい、交流のあるまち

- ・ボランティア団体、文化サークルの数が多く、元気がある。
- ・現在の隣組交流を強くしていく。
- ・あいさつや思いやりのある人であふれるまちに。

協働・共創のまちづくり

- ・行政と町民と一緒に協働・共創によりまちづくりを行う必要がある。
- ・町民一人一人が出来る事を協力・行動する。

行事、イベント、祭り

- ・祭りへの参加は、何か動機づくりが必要。高齢者は特に。
- ・参加しやすいイベントの開催、工夫を。

自然環境と調和したまち

- ・自然と暮らしが豊かに調和するまちづくりが必要。
- ・格子状防風林がきれい。
- ・標津川、町を含めて段丘面の緑を保全。
- ・環境に取り組んでいる町へ。

川づくり

- ・自然の流れのままの川を残していく。
- ・町、川、人が交流できる仕掛けを。
- ・タワラマップ川を中心に川を活用した街づくりを。

水・空気のおいしいまち

- ・水が美味しい、水がきれい。
- ・この美味しい水を永遠に続けていく。

景観や風景の美しいまち

- ・景観、風景がきれい。
- ・緑と川の景観を残していく。
- ・多くの人歩いてゴミを拾うと街はきれいになる。

酪農、農業の元気なまち

- ・雇用対策が必要となっている。
- ・公共や企業による支援、指導の仕組みをつくる。
- ・楽しい農業で生活できる環境であればいい。

“食”の美味しいまち

- ・種類が豊富で良質な乳製品がある。
- ・歩き、そして食べるグルメの街にする。
- ・乳製品で魅力的な物を生み出すことが求められている。

地場産業の元気なまち

- ・中標津へ帰ってくる若い人たちが働ける場を増やしていく必要がある。
- ・防風林の間伐材をペレット化して町民ストーブをつくる。

街中の賑わい、市街地の活性化

- ・市街地の空洞化が目立つ。
- ・人が歩ける、歩いて人が多い町、中心部にする。
- ・街のなかにいつでも人の集まる場（核、ハブとなる場）が必要。

交通の利便、立地特性を活かす

- ・空港という交通アクセスが有利便がよい。（町から空港まで10分）
- ・空港を活かし、北方領土との人的・経済交流。

観光の振興

- ・情報発信基地、交流拠点が必要。
- ・滞在型の観光モデルを形成する。
- ・特産物をPRし、特産物を利用した観光を行う必要がある。

広域連携

- ・周辺の町と連携し互いの良い所を取り入れ、共によいまちづくりを行う。
- ・PRは、町単独ではなく管内単位で魅力を発信することが必要。

コンパクトな都市づくり

- ・都市機能の拡大が見られる。
- ・周辺部のことも合わせて考えながら、コンパクトな市街地を考える。

都市マスの推進

- ・都市マスは、中標津の底力をもう一度考える機会。
- ・都市マスの決めごとを発信し続けていくことが必要。

基調講演 『まちは要りますか？』

『私が小さい頃、街は、何となく楽しい、いろんな人に会える、わくわくした感じがする、見たことのないものが見られるというところが街でした。しかし地方都市にはその街にあたる場所がありません。「まちは要りますか？」というのは、そのような街が皆さんや皆さんのお子さん、お孫さんにとって必要ないのでしょうかという問いなのです。』

このような投げかけから、中標津町は、少し農的な少し都市的な生活のできる地方都市としての魅力、「小さい町の底力」を十分に秘めた町である。

そして、それらをどのように活かして、身近な地域の拠点をつくり、歩いて暮らせる魅力的な街をつくっていくのか？といったこれからのまちづくりのヒントとなるお話をたくさんいただきました。

「職住が近接したコンパクトな市街地で、その中では福祉、医療が身近に受けられ、中高校生や高齢者の居場所があり、自然や景観、農村や食、エコツーリズムやグリーンツーリズムなどの豊かな環境資源を活かした分散型の都市が中標津のひとつの姿ではないか。」との先生からのご提案もありました。

どんなまちが要るのか？考えるのは私たちです。先生の基調講演をヒントに、中標津でなければ出来ない生活？暮らし？仕事？活動とは？といったことを皆さんと考え、中標津の地域力として都市マスに描いていこうと考えさせられる講演でした。小林先生、本当にありがとうございました。

歩いて楽しめる街がいいね！

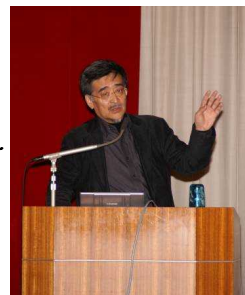


防風林の間伐材をベレット化して新たなエコ産業を！



19:00～ 基調講演

はじめに小林英嗣先生(北海道大学大学院工学研究科教授)に基調講演をしていただきました。



「まちは要りますか？」

20:00～ ワークショップ

ファシリテーター(CIS 計画研究所 濱田暁生会長)よりワークショップのルールの説明がありました。

- ・気軽にワイワイ楽しくやりましょう！
- ・参加者全員が発言しましょう！
- ・一回当たりの発言は手短かにひとり“3分以内”で！
- ・他の人の発言に割り込まない！否定しない！



132名の参加者が16の班に分かれて作業を開始。まずは自己紹介を兼ねてウォームアップを行いました。

これからの10年・20年大切にしたいまちづくりのテーマについて、思い思いの意見を順番に発表し、付箋に記入して模造紙に貼り付けました。出された意見を分類、整理し見出しをつけ、自分達の意見をうまく表すテーマをつけました。



21:00～ 発表

各テーブルでの検討結果を発表しました。残念ながら時間の都合上、代表して4つのテーブルからの発表だけとなりました。



21:30 終了

最後に、山本先生と小林先生から講評をいただきフォーラムを終了しました。

目的

今回の見直しは、「都市マス」が官民のパートナーシップのもと着実に推進されるべく計画として、一層明確な指針及び手引きとなるよう改訂することを目的としています。

策定体制と計画の推進

計画を策定するだけでなく、計画を着実に推進していくことを視野に入れ、実践的な取組を担える体制として以下の体制を整え、計画の策定、推進を目指します。

策定委員会

計画案の最終検討、調整を行い、町民に示す原案を承認する機関。

庁内推進会議

策定委員会に諮る素案を検討する機関。

策定後は、横断的連携により施策を推進。

街づくり協議会(H22年度設置予定)

ワークショップの開催などにより地域の問題、課題、意見を提言。

策定後は、各種まちづくり活動を担う。

策定委員のご紹介（敬省略）

小林 英嗣（学識者：北海道大学大学院教授）
山本 俊哉（学識者：明治大学准教授）
廣木 智（中標津町商工会）
加藤 孝則（(社)中標津青年会議所）
富田 恵一（中標津町農業協同組合）
栗崎 勝秀（NPO 法人伝成館まちづくり協議会）
原 怡男（地区代表：西町）
菊池 勤（地区代表：中心部）
佐々木 俊三（地区代表：東中）
細矢 榮司（地区代表：南部）
田中 健造（地区代表：東部）
佐々木 哲（地区代表：西部）
大野 ヒロ子（公募町民）
鈴木 睦子（公募町民）
吉田 正（公募町民）
清野 智樹（公募町民）
大形 幸男（総務部長）
西村 穰（経済部長）
青山 繁和（町民生活部長）
船越 信雄（建設水道部長）
高山 今朝男（教育部長）

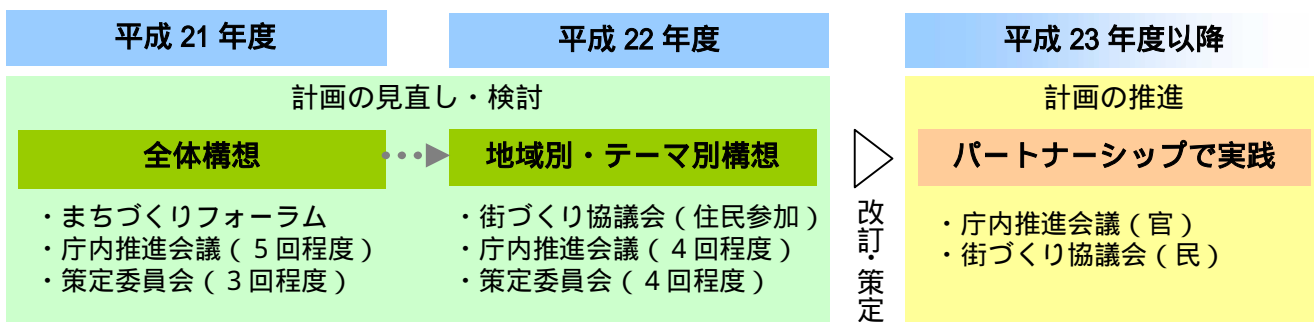
：委員長

：副委員長

スケジュール

平成 21 年度は、まちづくりフォーラムのワークショップでいただいた意見を材料に庁内推進会議や策定委員会での議論を中心に、全体構想を検討します。

平成 22 年度は、全体構想を受けて、地域別やテーマ別のより具体的な構想を検討します。検討にあたっては、地域住民の方の参加による街づくり協議会を設置し、地域の方の意見、提言をいただく機会を設けます。



策定委員会への話題提供 ... 明治大学 山本俊哉准教授

策定委員会の冒頭に、明治大学の山本准教授から話題提供として、「安全と安心」「公助、自助、共助」「地域協働」などについてのお話をいただきました。そのなかで「これからのまちづくりは、道路や公園などの社会資本を整備することも大事ですが、コミュニティと言われる社会関係資本（社会的な信頼関係、「お互い様」の相互扶助の精神、お互いのネットワーク）を醸成し、どう上手く繋げていくかが大事。」とのアドバイスをいただきました。



今後の予定

第2回策定委員会 が開催されます

第2回策定委員会を12月17日(木)に開催します。

開催内容については、次号「都市マス通信」にてご紹介いたします。